令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立荏原第五中学校

【国語】

7年

（1）定着状況の概要

基礎・応用とも目標値に達しており、小学校での学習が概ね定着していると考えられる。

出題のねらい	目標値	全国正答率
漢字を書く	70.0	66.7
文章を書く	52.5	51.8

（2）具体的な課題

書くことについて、苦手意識をもっている生徒が多く、1（3）では無回答が約３０パーセントだった。書くことへの抵抗感があるように感じる。

（3）課題の原因として考えられること

タブレットを授業でしようすることが増えてきた。その結果、「タブレットなら表現できる」が「紙に書く」ことについては抵抗感を感じている生徒が一定数いる。

（4）課題解決のための方策

タブレットの授業だけではなく、「紙に書く」授業を増やしていく。書くことに対する抵抗感をなくすために、身近で簡単に表現できる題材で書く経験を増やし、表現することの楽しみを感じさせる。また、基礎的な漢字の読み書きを更に定着させる。

8年

（1）定着状況の概要

全体では目標値には届いているが、領域によっては目標値を大きく下回っているものもあった。知識を問う問題が苦手である。

出題のねらい	目標値	全国正答率
歴史的仮名遣い	40.4	40.5
文節の関係	45.0	42.6

（2）具体的な課題

文章の読み取りに比べ、文法と歴史的仮名遣いが課題である。

（3）課題の原因として考えられること

歴史的仮名遣いは、古文の授業で触れてはいるが、反復して学習することがなかった。文法も同様で、授業内では理解をしているが、定着をしていない。

（4）課題解決のための方策

読み取りと知識の授業のバランスが読み取りに偏っていることがわかったので、小テスト等を行い、定期テスト以外でも知識が定着するように授業を進めていく。

9年

（1）定着状況の概要

選択より記述の問題の正答率が平均と比べて高い。文章を書くことに対して苦手意識が低く、自分の考えを相手に伝わるように表現する力が高い。

出題のねらい	目標値	全国正答率
文章を書く	58.8	60.3
文法・語句に関する事項	61.7	65.5

（2）具体的な課題

文法の分野で用言の活用への理解が低い。文章を書くときに、自分の考えを表現できているが細かな文の整合性や一貫性に乏しいところがある。

（3）課題の原因として考えられること

書き言葉と話し言葉の明確な違いや、文章の細かな文法まで授業で十分に扱えていないため。

（4）課題解決のための方策

文章で自分の意見や考えを書いた後に推敲させるなど、友達同士で添削しあう機会を増やす。

【社会】

7年

（1）定着状況の概要

校内平均正答率は全国平均正答率より少し上回っている。

出題のねらい	目標値	全国正答率
三権分立の仕組みについて理解している。	50.0	41.8
内閣の働きについて、理解している。	50.0	52.3
太平洋戦争中の日本の様子について理解している。	65.0	63.7

（2）具体的な課題

「日本の政治」が全国平均正答率より少し下回っている。次点で、明治～昭和時代も低い。

（3）課題の原因として考えられること

問題文を読み、出題の意図や主訴を理解する能力が低い場合や、諸資料の要点を理解し、解答につなげる力が不足する場合もある。

（4）課題解決のための方策

ＩＣＴを効果的に活用したり、単元ごとの丁寧な振り返り学習をしたりすることで、社会的事象の関連性を考察・表現する機会を増やし、家庭学習の習慣化のための課題を定期的に行っていく。

8年

（1）定着状況の概要

校内平均正答率は全国平均正答率より上回っており、前年度よりも上昇した。

出題のねらい	目標値	全国正答率
オセアニア州の気候と農業について、資料を読み取っている。	60.0	63.3
徳政令について判断している。	45.0	37.2
日本列島における国家の形成についての理解をもとに、判断している。	50.0	45.9

（2）具体的な課題

歴史的分野において、校内平均正答率が全国平均正答率を下回り、特に「縄文時代～古墳時代」において校内平均正答率が全国平均正答率を 5 ポイント以上下回っている。地理的分野では、「世界の諸地域」が若干下回っている。

（3）課題の原因として考えられること

年度初めに学習した「縄文時代～古墳時代」の内容を復習する機会を設けなかった。また、資料を読み取る活動が少なかったため、史料や地図が関わる問題の正答率が低くなってしまったと考える。

（4）課題解決のための方策

授業の中で教科書や資料集を活用し、史料や地図、グラフなどを読み取る時間を設ける。また、単元のまとめにおいて、資料を活用した課題に取り組ませる。

9年

（1）定着状況の概要

校内平均正答率は 51.8%で、全国平均正答率の 47.1%より少しだけ上回ることができた。

出題のねらい	目標値	全国正答率
①新航路の開拓について理解している。（16 世紀ごろ）	40.0	12.0
②異国船打払令について理解している。（19 世紀ごろ）	45.0	44.5
③江戸幕府の政治改革について、複数の資料をもとに判断している。	40.0	25.0

（2）具体的な課題

① 全国的な傾向でも同様だが、授業で扱った時期から時間が離れた分野の正答率が低かった（右記の表①と②を参照）。

② 問題文や資料の読み取りに、ある程度の国語力・思考力が求められるような問題になると、正答率が低くなる（右記の表③を参照）。

（3）課題の原因として考えられること

① 特に歴史の授業において、一度扱った時代を授業や考査で復習させる機会がない。

② 授業において、適切な資料を自分で選択して、自分の仮説・意見を構築して発表する機会がない。

（4）課題解決のための方策

① 授業の進度を阻害しない範囲で、基礎的な知識の振り返り・定着を目的とする課題を設定し、評価の対象とする。

② 考査やレポート課題で、資料を自分で選択し、意見を構築する機会を増やす。また、それをやらせたままにせずに適切に評価し、思考力の向上につなげる。

【数学】

7年

（１）定着状況の概要

教科全体だけでなく、領域別、問題の内容別、観点別それぞれの校内平均正答率が、全国平均正答率を上回った。ただし、一部の問題について、課題が見られる。

出題のねらい	目標値	全国正答率
最大公約数を求める	70.7	68.8
少数÷少数の計算	80.0	75.7
分類	目標値	全国正答率
基礎	64.8	65.7
活用	59.3	61.6

（２）具体的な課題

最大公約数を求める問題、小数と小数の計算問題の正答率が目標値を下回った。基礎問題、活用問題とも５ポイント程度目標値を超えているが、区の平均正答率にやや達していない。

（３）課題の原因として考えられること

少数÷少数の計算につまずきがあると考えられる。また、約数や最大公約数の意味など、時間が経つと忘れてしまっていることが考えられる。

（４）課題解決のための方策

既習事項の学び直しや反復学習を行うことで改善を図る。

8年

（１）定着状況の概要

教科全体の正答率は目標値・全国平均を上回った。基礎問題は上回ったが、活用問題で下回っており、課題が見られる。

出題のねらい	目標値	全国正答率
関数 (比例・反比例)	48.3	49.0
データの活用 (データの分布の傾向)	50.0	49.2

（２）具体的な課題

内容別では「比例・反比例」や「データの分布の傾向」に関して、課題が見られる。「比例・反比例の活用」で 全国正答率を下回っている。

（３）課題の原因として考えられること

用語の意味の理解が不十分であることが考えられる。

（４）課題解決のための方策

今後の１次関数の授業を行う際は、既習事項の復習をしながら進める必要がある。問題の演習を増やし、繰り返し学習することで定着を図る。

9年

（１）定着状況の概要

教科全体だけでなく、領域別、問題の内容別、観点別それぞれの校内平均正答率が、全国平均正答率を上回った。ただし、一部の問題について、課題が見られる。

出題のねらい	目標値	校内正答率
与えられた条件から三角形の合同を証明し結論を導くことができる	30.0	23.7

（２）具体的な課題

「箱ひげ図から、示された主張ができる理由を説明することができる。」項目に関して、課題が見られる。

（３）課題の原因として考えられること

技能としての穴埋めはできるが、数学的に物事をとらえること、表現することにつまずきがあると考えられる。パターン化した証明はできるが、自分で組み立てて説明することに課題がある。

（４）課題解決のための方策

自分の考えを、数学的な表現方法を使って正しく証明・説明する問題演習を繰り返す。

【理科】

7年

（1）定着状況の概要

本年度の校内平均正答率は区平均正答率をやや下回っている。応用問題は目標値に達しているが、基礎・活用の問題が目標値に達していない。

出題のねらい	目標値	全国正答率
拍動と脈拍について理解している。	30.0	17.7
条件を整えて適切な対照実験を構想できる。	35.0	35.1

（2）具体的な課題

生物の領域で正答率の低さが目立つ。

（3）課題の原因として考えられること

似たような単語について正確に理解することができていない。
それぞれの実験について何のために条件を変えているのか、その条件を変えることでどんな影響がでるのかということが正確に理解できていない。

（4）課題解決のための方策

単語をただ作業的に暗記させるのではなく、語句の意味をしっかり自分の言葉で説明できる場を設ける。対照実験については１つ１つの条件が何に関係することなのかを思考できる時間を確保する。

8年

（1）定着状況の概要

本年度の校内平均正答率は区平均正答率を下回っている。活用の部分で前年度の校内正答率を上回っているが、目標値に達していない問題が半数以上ある。

出題のねらい	目標値	全国正答率
仮根について理解している。	50.0	48.3
地震の震度とマグニチュードがそれぞれ表すものを理解している。	30.0	25.0

（2）具体的な課題

基礎的な知識が定着していないことが考えられる。

（3）課題の原因として考えられること

用語のみ覚えている、もしくは似たような用語への理解が不足しており、その言葉が指す意味を理解できていない。

（4）課題解決のための方策

基礎知識定着のため、小テストの実施回数を増やし、生徒の理解度を定期的に確認するようにする。また、授業内においては、生徒同士で用語の説明を行うことで理解度の確認をするとともに、自ら授業に参加しているという意識を高めていく。

9年

（1）定着状況の概要

本年度の校内平均正答率は、区正答率を上回っている。基礎、活用、多くの領域で区の平均正答率を上回っているが、電流の領域の一部にて区の平均正答率を下回っている。

出題のねらい	目標値	全国正答率
電磁誘導について理解している。	35.0	27.5
電子について理解している。	55.0	58.0

（2）具体的な課題

電流の領域で正答率の低さが目立つ。特に、「電流と磁界」や「電流の正体」の問題の正答率が低い。

（3）課題の原因として考えられること

基礎的な知識が定着していないことが考えられる。また、用語だけは覚えているが意味を説明できるほど理解できていないと思われる。

（4）課題解決のための方策

基礎基本用語の定着のため、小テストの実施や前時の復習に費やす時間を確保し、生徒の理解度を確認していく。また、用語を覚えるだけでなく、友人同士で理解度を確認する時間をとり、自分の言葉で説明する活動を取り入れる。

【英語】

7年

（1）定着状況の概要

昨年度同様、校内平均正答率は全国平均正答率より上回った。右表から分かるように全体的に全国正答率を上回り、学力の基礎が身に付いていると思われる。ただし、「書くこと」の力においては、区の正答率より下回る。

出題のねらい	目標値	全国正答率
会話全体の理解（聞く）	70.0	74.2
単語の読み	85.0	86.8
英作文	60.0	62.2

（2）具体的な課題

「英文の完成」を除く全ての分野で、全国平均を超えている。「英文の完成」の分野については、わずか 0.4 ポイント全国平均を下回っている。

（3）課題の原因として考えられること

基本的な英文の語順について触れる機会、および基本的な文章を正確に書かせる機会が少なかったことから、英文を完成させる力が弱いと考えらえる。

（4）課題解決のための方策

基本的な英文の構造を身につけさせるため、場面を意識させる授業以外にも基本的な英語の語順を意識しながら簡単な文章を作る機会をもっと取り入れる。

8年

1）定着状況の概要

校内平均正答率は「リスニング」、「語彙の知識理解」、「並び替えによる英作文」ともに全国平均正答率より高い。そのため、基礎的な学力がある程度身についていると考えられる。

出題のねらい	目標値	全国正答率
リスニング（対話文の応答）	47.5	47.7
語彙の知識理解	65.0	67.6
単語の並び替えによる英作文	60.0	61.8

（2）具体的な課題

「場面に応じて書く英作文」（▲2.7pt）や「情報に基づいて書く英作文」（▲0.1）において目標値・全国平均より下回っている。

（3）課題の原因として考えられること

与えられた語句を使って英作文を書くことはできるが、自分自身で考えて英作することができない。それは、語彙力の不足であると考えられる。

（4）課題解決のための方策

語彙力をつけるための機会を増やすこと。長文読解やリスニングの機会を増やすことで、インプットの量を増やしていく。また生徒同士の会話などの機会を増やすことで、アウトプットの機会を増やしていく。

9年

（1）定着状況の概要

校内平均正答率は、全ての項目において全国平均正答率より上回っている。また、区平均正答率との比較では、すべての項目で下回っている。目標値は「書くこと」を除いて達成している。

出題のねらい	目標値	全国正答率
リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	55.0	57.2
長文の読み取り	42.5	42.0
場面に応じて書く英作文	30.0	14.3

（2）具体的な課題

「書くこと」について区の平均正答率を大きく下回っている。定型文を身に着け、応用して書く練習を増やす必要がある。

（3）課題の原因として考えられること

英文の正しい構造、順序の理解や、その使い方が定着していない。

（4）課題解決のための方策

「聞く」、「読む」、「書く」、「話す」の４技能をバランスよく授業展開をし、文の構造や英文の作り方を確実に理解できる指導方法を考える。くり返し学習し、定着を図る。